



→さいわい増水した水は一日で平常時に戻った。



←畑の脇にニラの花芽が伸びてきた。この芽を摘んで茹でてたべると美味。



迷走台風は各地に大雨を降らして新潟県の沖合で温帯低気圧になった。

さいわいにして関東地方、とりわけ東京には風も雨もたいしたこともなく通り過ぎたが江戸川の水はふえて、矢切の渡しは水曜日の九日は休んだ。

台風一過で九日は快晴だったが、十日からは曇り日が続き、気温も二十五度前後の日が続いた。

「まるで梅雨時のような天気だねえ」矢切の渡しに下りると舟頭さんがそういつて昔話をし始めた。

「オレが子どものころは矢切にも田んぼが多くて、NHKの朝の連続ドラマ『ひよっこ』見たろ。あんなふうに田植えをしたもんだよ」

朝の連続ドラマ『ひよっこ』は茨城県の間山の村が舞台になっている。記憶喪失の父親を連れて村に帰った谷田部家では田植えをしていた。

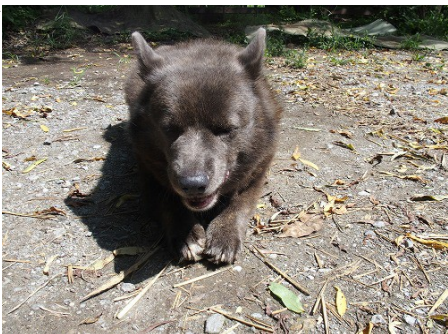
「あんなふうに田んぼに筋をつけておいて、みんなで植えていく」

あのドラマを見て私は、なんだか違和感をいだいた。

「筋にそって植えていくのは分かるけ

今週のクマ

→クマの好物のセミの出る季節がやって来た。さっそくセミを食べる。



→いつのころか矢切の渡しにカラスウリがなるようになった。今年も実がたくさんぶらさがっている。秋になると赤く熟れる。



ど、あのドラマは前に向かって植えてたじゃない？ ぼくの子どものころは、後ろに下がりながら植えていたように思うけどなあ……」

すると舟頭さんが、

「関東では前に向かって植えてたよ。後ろにさがりながら植えるのは関西流じゃないの？」

そうなのだろうか？ あのドラマは関東ふうの植え方だったのだろうか？ 前に向かって植えていくということは、植えた苗のあいだを歩くことになる。

ところが後ろ下がりながら植えれば苗を踏みつける心配をしなくていい。このほうが合理的な気がするが、はたしてどちらが理にかなうのだろうか。

「もつとも今はそんなことは気にしなくても機械で植えていくからいいけどね。最初は人が歩きながら機械を押すように歩いていただけ、今は人が機械に乗っていればどんどん植えていってくれる。ずいぶん便利になったものだ。」

その変わり農家は大変だよ。一年に一回しか乗らない乗用車なみの高い機械を買わされるんだもの……」

むかしも今も農家は大変なんだなあ。